

## 第5回春日山原始林授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年12月2日(月)19時～21時
- ◇会場 次世代教員養成センター1号館 教室兼大会議室
- ◇参加者 杉山(春日山原始林を未来へつなぐ会)、吉田・長友(附属中学校)  
北村・中澤(奈良教育大学)

### ◇内容

「ひとに会う」を通して学ぶESDの価値実現の教育実践の構想Ⅱ(奈良教育大学附属中学校 吉田寛・市橋由彬)の検討

次世代教員養成センター紀要に提出された原稿をもとに、今年度実践された「奈良めぐり」をESDの観点から考察した。ESDは生徒の持続可能な社会づくりに関する価値観と行動の変容を促す教育であることから、生徒の変容を把握し、価値観や行動の変容をもたらした要因や、変容が見られなかった時のその原因を明らかにすることで、授業実践の洗練化を図ることをねらいとして相互に検討した。



本稿は2つの部分から構成されている。1つは「ひととの出会い」を通じた教師の変容」の中の「ミツバチから生き方を考える」として市橋教諭が記述した部分であり、もう一つは吉田教諭による「春日山原始林」である。

#### (1)「ミツバチから生き方を考える」に関する考察

当初、SDGsに関する理解のために、ミツバチと人間の関係を通して、奈良の自然や生態系について学び、そこでの学びから日常生活を見直すことが目的であった。SDGsの理解促進が学びの主目的であり、ミツバチはその材料(教材)という位置づけであった。ところが、吉川氏という自然農法や養蜂の実践家と出会ったことで、吉川氏の生き方から学ぶという「こと・もの」からの学びから「人」からの学びに大きく方向転換をした。ESDでは価値観や行動の変容を重視しているため、「こと・もの」から「～という状況なので〇〇しよう」ではなく、人の生き方から学ぶ方が、目的にかなっていると見えよう。

また、市橋教諭は吉川氏との出会いにより、「教師自身の変容」があり「ひとに会う」価値を教師自身が見出だした」と述べ、「生徒の変容を促すには、まず教師の変容が必要であることが再確認された」と記している。ここから、価値観や行動の変容を促すには、合理的・科学的な「知識」だけではなく、「感性」「感動」が必要であるという提案を読み取ることができるだろう。

#### (2)「春日山原始林」に関する考察

吉田氏の春日山原始林の実践から明らかになったことは、自然環境を教材とした場合、課題については生徒に伝えやすいことである。春日山原始林においても、ナラ枯れやナンキンハゼ、増えすぎたシカによる食害などの課題は伝えやすかった。一方、自然環境の「よさ」「価値」を伝えることの難しさが改めて浮き彫りにされた。自然環境のよさに気づかせるために、杉山氏はネイチャーゲームをしたり、目を閉じて森の声を聞かせたり、風を体感させたりすることで、自然環境に着目させ、意識さ

せる活動を取り入れている。その活動を通して自然環境に関する気づきを得る生徒もいれば、そうでない生徒もいる。「自分は春日山原始林が好きでこの仕事をしているのだが、この「好き」という感覚をすべての生徒と共有するのは難しい」とおっしゃっている。



課題はテキスト化されている。またナンキンハゼやシカの食害などは具体的にみることができる。しかし、「よさ」や「価値」は、感覚的なものであるため、伝えることが難しい。感覚的な「よさ」や「価値」を子どもに伝えるには2つあるのではないか。杉山氏は春日山原始林でガイドをされる際に、思いもかけなかったものを見つけると、その都度ツアー

参加者に紹介しているが、杉山氏の生き物を見つけた「喜び」「驚き」が、ツアー参加者に伝染し共感すると言われる。これは、市橋教諭の考察の「生徒の変容を促すには、まず教師の変容」と関連する。指導者が感動したことが子どもに伝わるということである。もう一つは、フィールドワークしながら色々と話したり見せたりすることで、子どもの「あこがれ」が喚起され、「よさ」や「価値」への共感を生むのではないだろうか。見過ごしがちな生き物をめざとく見つけて喜んだり、自然環境に関わる話題を色々と提供するためには、下見をしたり文献を調査したりといった事前研修が必要である。春日山原始林について「知っている」ことが想定を持たせ、想定通りの生き物を発見できたり、想定以上の生き物が発見できたりという「感動」が子どもに伝わり、あこがれを生むことで、子どもの春日山原始林に対する関心が高まるのである。

### (3) まとめ

今回のセミナーでは、ESDの目的である「持続可能な社会づくりに関する価値観と行動の変容」を促すために必要なものについて、参加者のこれまでの経験も踏まえた話し合いがもたれた。知識だけでは人の行動は変わらない。知識と感動（感性の揺さぶり）があって、人は自らの行動を変えていく。あるいはESDが目指す変容を促すためには、ESDが模範となるような生き方をされている方と子どもを出会わせるのが効果的ではないかという意見にまとまってきた。

一方、行動の変容をみる時期については、教育の成果はすぐにでるものと、ずっと先になって出るものがあるという共通認識のもと、すぐに結果を求めようとする昨今の教育情勢に流されることなく、長期的視野で子どもの変容を促す教育をする必要があるだろうと話し合った。

